

# 切磋琢磨の日々で自身の海外経験を検証



国際社会科学府 経営学専攻  
博士課程前期 社会人専修コース  
2015年修了

吉田 信行 さん

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

## Q1 入学の動機を教えてください

社会人7年目の頃、海外部門へ異動し、海外で事業を立ち上げる仕事に携わるようになりました。それまでは事業の一部を担っていれば済みましたが、一人海外に渡り会社を立ち上げるとなるとそういきません。自身が背負う事業やブランドにとって、自分がその国での最終兵器なんだという事を強く感じました。必要となる様々な事について自ら考え、決めていく必要があったのです。それからの十数年、成功もあれば失敗も数多く、悩んだ日々もあり、その自分がした経験を一つ一つ検証する必要があると認識していました。そんな中、あるとき日本へ帰国することとなり、YBSを受験しました。

## Q2 研究内容について

企業においては、中長期を見据えた事前計画が重要視されています。しかし計画を想定通りに進めることは非常に難しく、悩む企業は多いと思います。他方で、起こった問題に上手に対応し、優位性に結びつけている企業があることも、また事実です。そこで、構築した計画と合わせ、組織が持続的な優位性を構築する過程において起こる問題点に対し、どのような調整活動が必要か、ということテーマに研究を行いました。

## Q3 在学中の仕事等との両立をいかに行いましたか

一番の課題は、家族との時間でした。平日の夜と週末は授業、さらに日々の課題をこなす時間は、家族の理解なしでは得られません。快くかどうかは不明ですが、理解してくれた妻にとっても感謝しています。また、海外出張が多く、仕事との調整も大変でした。出張先で夜な夜な課題に取り組むことが日常で、機内で完成後、羽田から横浜へ向かう事も何度もありました。それも先生方や同期の仲間の厳しい突っ込みが待っていたからからこそと、感謝しています。

## Q4 YBSでの「学び」が業務にどう活かされていますか

現在は、経営戦略部門に所属し、海外販売の事業に従事しています。YBSで様々な企業で活躍する専門知識を持ったメンバーと、各々の問題意識について深く議論する機会を得たことで、経営というものへの理解が、必要となる各分野の関連性を重視した体系的なものへと変化したことは大きな収穫でした。そこから得たことを実践しながら、より高い視座で課題をとらえられるよう、今も努力の毎日が続いています。

自らの経験を生かしながら、組織の方針・戦略を、部門の目標へと具体化し、チームメンバーと共に実践していくというプロセスにおいては、YBSで取り組んだことひとつひとつが活かされていると実感しています。

## Q5 YBSを志望する人へのメッセージ

仕事や家庭と両立しながらの取り組みは大変ですし、修了して急に何かが変わるようなものではないと思いますので、どう捉えるかは自分次第だと思います。しかし、普段は知り合うことのできない様々な立場のメンバーと深くビジネスについて議論ができ、先生方や同期との苦しみながら過ごす日々は、非常に貴重な財産になると思います。本当に自分にとって大切なものを学びたい方、ぜひチャレンジされてみてはいかがでしょうか。

